

誰もが自分らしく働き・活動して暮らせる地域を創造する。

社会福祉法人 虹の会

就労準備支援従事者養成研修【事例発表⑦】

対象者別の特性理解(2) H29.10.11

就労準備支援ホップ 藪内 正子

本日の流れ

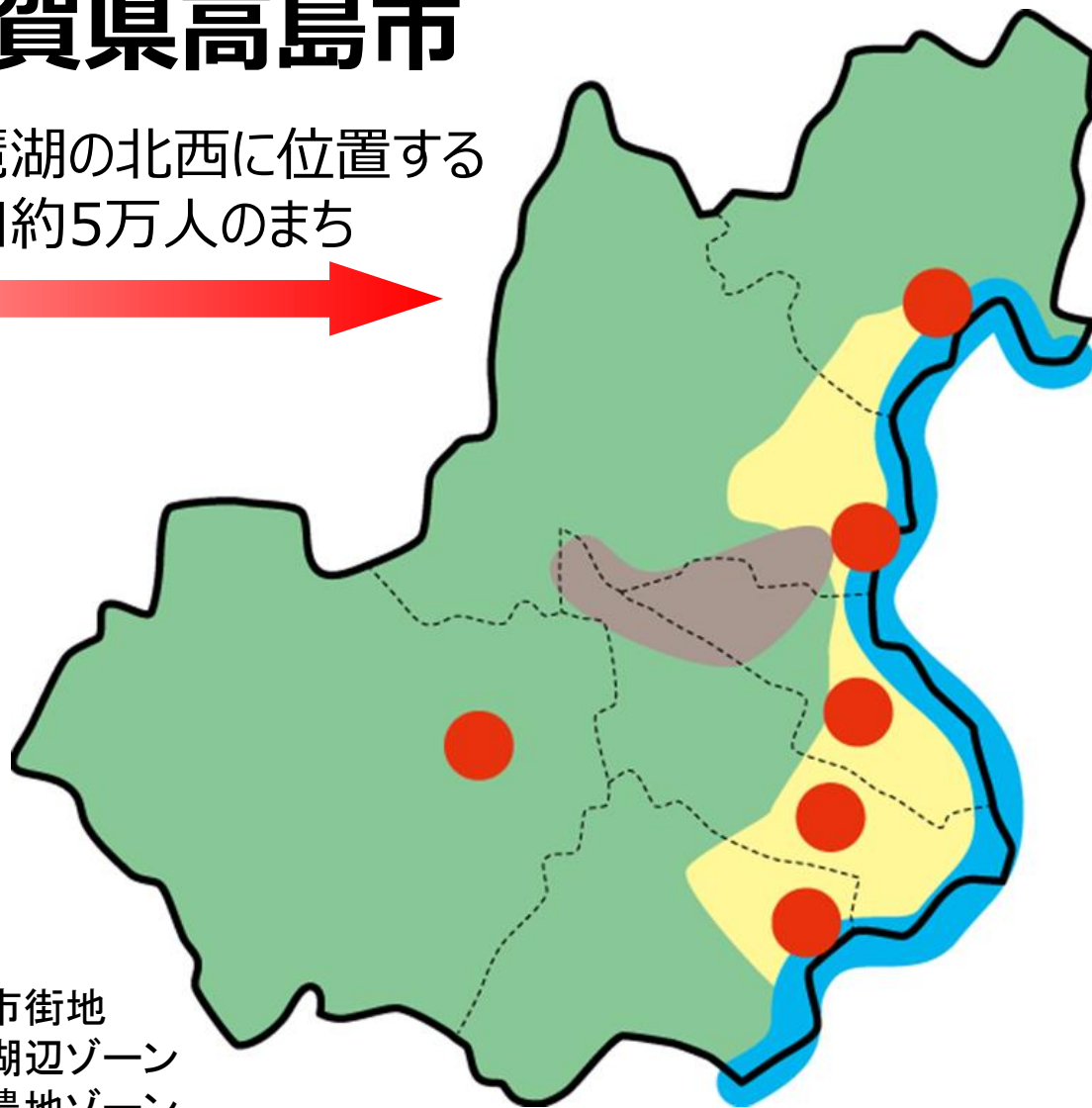
1. 自治体の概況
2. 社会福祉法人 虹の会の紹介
3. 就労準備支援ホップ 事業の概要
 - ① 支援体制
 - ② 支援内容
 - ③ 事例紹介（2例）

【1.自治体の概況】



滋賀県高島市

琵琶湖の北西に位置する
人口約5万人のまち



面積	693 k m ²
世帯数	19,560世帯
人口	48,798人
被保護世帯数	276世帯
被保護人員	395人
保護率	8.01%

【2.虹の会の紹介】

◆虹の会法人理念「共に生きる」

～誰もが自分らしく働いて暮らせる
地域を創造する～

[相談支援/就労支援/生活支援/地域支援]

◆滋賀県高島市で9つの事業所と 8つのグループホームを運営



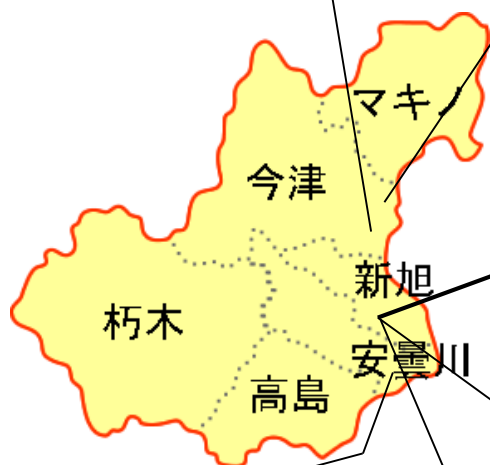
◇ ひまわり生活の家
(共同生活援助事業/定員42名)



◇ 大地：農業、リサイクル
(就労継続支援 B 型事業/定員10名)
(生活介護事業/定員10名)



◇ コンパス
(高島市障がい者相談支援センター)



◇ アイリス：リサイクル・リネン
(就労継続支援 B 型事業/定員40名)
◇ 法人事務局



◇ ドリーム・だんだん：自主製品、受託作業
(生活介護事業/定員34名)
◇ ドリーム・あんです：レストラン、パン・菓子、メンテ
(就労継続支援 B 型事業/定員20名)
(就労移行支援事業/定員6名)



◇ マープル：リネン
(就労継続支援 B 型事業/定員20名)
◇ ホップ
(就労準備支援事業/定員15名)



◇ ハーモニー (生活介護事業/定員20名)
◇ わになろう
(居宅介護事業/地域活動支援センター 他)
◇ 計画相談支援センター虹
(計画相談支援)

【3.就労準備支援ホップ 事業の概要】



高島市就労準備支援事業「ホップ」 (虹の会が高島市よりH28.4受託)

【事業理念】 誰もが参加できる地域の居場所や、中間就労の場を確保して、社会的孤立をなくす地域づくりを目指す。

【利用期間】 1年間 【定員】 15名

【支援体制】 管理者1名
就労準備支援担当1名(教員0B)
専門家1名(特別支援教育士SV)

【虹の会の受託の強み】

- ・障がいのある人の就労支援の実績、ノウハウがある。
- ・人材、資源の活用ができる。
- ・作業体験や実習の場がある。

【3.就労準備支援ホップ 事業の概要】

入口

市社会福祉課
男性2名
女性1名

「よろず」
男性4名
女性2名

支援メニュー

【日常生活支援】定期面談(本人・家族)、家庭訪問、検査・受診同行

【社会生活支援】ボランティア活動、宿泊体験1泊2日(2回)、文化・芸術・スポーツ活動、食事会(月1回)、学習会

【就労自立支援】法人内作業体験、トライアルWORK体験、短期アルバイト、傍楽体験(移動販売・リネン)、求職活動、タグリサイクル作業、遺品整理等

出口

就労継続支援B型
事業所 1名

短時間・期間限定
アルバイト・有償ボラ
1名

障がい者相談支援
センター 1名

居場所としてホップ
利用 1名

※「よろず」 高島市の生活困窮者自立相談支援機関の愛称

【障がい者支援と困窮者支援における視点の共通点、相違点】

「共通点」

- 本人の特性理解から行動改善へ
- 自己理解のすすめ
- 意欲、関心の引き出し方

「相違点」

- 育ちの情報のあるなし
- 育ちの中で支援者のあるなし

（人に支えられた経験がない。人の介入を良しとしない。

発達障がいの疑いのある人の環境不適応が背景要因にある。）

- 孤立・孤独感

【事例紹介:本人、家族に学童期から気づきのあったケース】



Aさん (30代半ばの男性 妻と二人暮らし)

中学卒業後、親の知り合いを頼りに就職するが倒産や解雇等の理由で、長くて3年で離転職をくり返してきた。相談に行き、生活保護開始。⇒行政より**ホップ**へ⇒マール事業所(B型)の利用

○**こんな人**⇒読み・書き・計算が苦手。ことば数は少ないが、親しみやすい。作業は丁寧で責任感がある。報・連・相・挨拶ができる。

○**決め手になった支援**⇒母親面談、働く場と対価の保証、療育手帳の取得、障がい者年金受給。

⇒生活保護からの脱却、一般就労を目指す

⇒感想「できることが増えた。わからないことが聞ける。相談できる人がいる。しゃべってくれる、しゃべれる仲間がいて楽しい。」





Bさん（40代前半の男性 両親と同居）

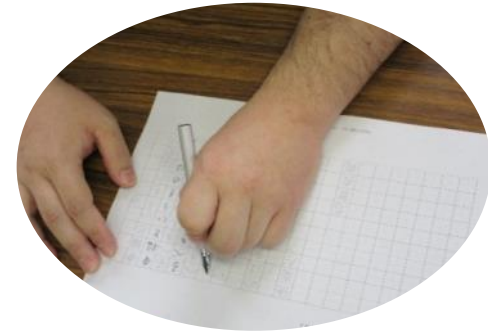
大学を2年弱で中退し、ひきこもる。親の紹介等で就職するが
続かず、他県で配送業につくが、ハードかつ食生活の乱れも
あって、病気になり再びひきこもる。帰郷し、いくつかのアルバ
イトをするが継続せず5年間失業。⇒母が「よろず」⇒ホップへ
⇒ホップ通所（毎日）、就労継続支援B型事業所「マーブル」の実
習（週3日）

○こんな人⇒話すスピードが速く、標準語で話す。おしゃべり好き。
父子関係が悪く、恨み・辛みを抱いている。
積極的・意欲的に活動や仕事に参加できる。

【事例紹介 Bさん】

○決め手になった支援⇒利き手の発見(左手での文字練習)

母との面談(生育歴・学童期の情報)。発達障
がいの検査・診断(自己理解、家族の本人理解
と関わり)。活動や仕事の提供(対人関係の学び)。



父との面談(息子への思い)。事務・リネン作業の体験(作業能力発揮)。

○本人の思い⇒マーブルの人と今後も関わりたい。

手帳の取得も視野に入れて仕事を探したい。

経済的に自立したい。一人暮らしをしたい。

⇒能力の高さを活かせる仕事と職場環境のマッチングを模索中



40になった息子が毎日何もしないで家にいる姿を見るのがつらい。喜んで行くところがあってホットしている。

誰にも相談できずに隠してきたが、友だちに初めて我子の事を打ち明けられた。



【支援において大切にしていること】

● アセスメントの重要性(説明の根拠)

⇒ フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントの整合性

● 自己受容の機会と場面の設定

⇒ 働き体験、創作活動、実習、面接相談

● 自己決定・自己実現の保障

⇒ 選べる材料の提供、対価の保証、NOの受容

● グループワークの効果

⇒ 人との関わりの場面設定、他者理解とともに自己理解が深まる



 **ご清聴ありがとうございました**

shiganijinokai.net